

# 好学尚武

## 関西遠征の結果

10日（土）対所沢高校

第1試合	12対7	勝利
第2試合	6対4	勝利

通算成績 19勝 1敗 1分

## 関西遠征の写真（備忘録）



### 甲子園大会見学・・・

私にとっては「いつかこの舞台に立ってやる！」毎年、そう思って帰ってくるものとなっています。今年も大きかったです・・・

### 来年への備忘録

来年はオリンピックの関係で、甲子園大会がやや遅い開催予定になっています。よって（新人大会のこともあり）甲子園大会開催より前に関西遠征を行う予定です。また、今回お邪魔した兵庫県の市立高校では全国の市立高校と交流試合を行うことが計画されているそうです。年内には連絡が来ることになっていますので、決まり次第連絡させていただきます。

## 明らかな変化

普段、私は（ベンチで采配をしているので）投手と打者を横から見ています。今回書きたいこと・・・それはバッティングの変化です。

### 低めに投げることは良いこと

### 高めに投げることは悪いこと

野球経験者は間違いなく聞いた（言われた）ことのある言葉だと思います。

今・・・「投手対打者」を横から見てみると（投げているコースは分かりづらいですが、高さはよく分かるので）上記の言葉が当てはまらないことに気付かされます（低めの方が良い当たりをされている）。

（昔のように）皆が上から下に叩きつけるようなスイングをしていれば、上記の言葉は正しいのだと思います。でも・・・今の選手達はスイングの軌道が違います。投手は意図的に高めのゾーンへボールを投げなければならない時代なのだと思います。（これも触れなければなりません、主審によって高めのストライクゾーンに違いがあります・・・さらに踏み込むと、年配な方ほど（上記の言葉、高め＝失投が頭にあり）高めのストライクゾーンに対して厳しい（狭い）ジャッジ傾向があると私は見えています）

さらに踏み込みます。（昔のように）選手全員にスイングを統一させる指導法は相手バッテリーが対応しやすいはずですが（基本、皆同じ対策で打ちとることができる）。バッテリーにとって嫌なのは間違いなく個性的な集団でしょう。私の経験上、3・4番にタイプの違う打者を入れると、打線として機能しやすくなる・・・というのがあります。

話し過ぎました。

野球は考えれば考えるほど楽しいスポーツです。昔から言われている、行われていることに疑問を感じながら活動してほしいと思います。